

## 6 壱岐地域（壱岐市）

### (1) 地域の特徴

- 本地域は、対馬地域とともに壱岐対馬国定公園に指定されており、白砂青松の海岸をはじめとした美しい自然景観、豊かな歴史遺産、温泉、グルメなど多くの観光資源に恵まれています。
- 古くから大陸文化の中継地として重要な役割を果たしており、日本遺産に認定された「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」を構成する国指定特別史跡の「原の辻遺跡」、国指定史跡の「勝本城跡」や「壱岐古墳群」など、貴重な歴史遺産が数多くあり、「壱岐市立一支国博物館」、「長崎県埋蔵文化財センター」を拠点として、これらの貴重な歴史・文化資源等を活用した地域振興に取り組んでいます。
- 地理的特性から福岡都市圏との結びつきが強く、経済圏も福岡市を中心とした北部九州地域に広がっています。
- 産業別就業者数は、第1次産業の比率が県平均(8.2%)と比べて高い(22.8%)のが特徴ですが、その割合は減少傾向にあり第3次産業が増加してきています。
- 農業は肉用牛、水稲、葉たばこの基幹作目を中心に、施設園芸や露地野菜、花き等を取り入れた複合経営が主体で、特に農業産出額の過半を占める肉用牛は市場の評価が高く、「壱岐牛」として地域団体商標にも登録されています。
- 水産業は好漁場に恵まれ、釣りや定置網等により、イカ類、ブリ類、サワラ、クロマグロなどが主に漁獲されています。特にイカ類は、壱岐市の水産物生産量の56%、県のイカ類生産量の22%を占めています。また、ウニ類等の磯根資源も豊富です。
- 壱岐は麦焼酎発祥の地と云われ、壱岐焼酎は平成7年にWTO\*（世界貿易機関）協定に基づく地理的表示の産地指定を受けています。島内7つの蔵元によりその伝統と製法が守り続けられており、壱岐を代表する特産品となっています。

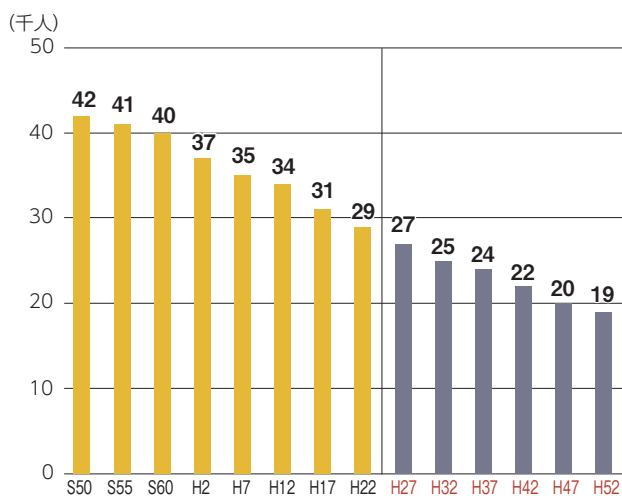
### (2) 地域の課題

- 平成22年現在の人口は約29千人と昭和55年の約41千人と比較して30年間で12千人、約29%減少しています。平成52年には約19千人となり、平成22年と比較して10千人、約34%減少することが推計されています。
- 平成22年の高齢化率は県平均(26%)を大きく上回る約32%となっています。また、15歳未満人口も減少を続けており、人口減少と併せて少子化・高齢化も進行しているなか、若者(特に高等学校卒業後)の流出防止や雇用創出、加えて、医療提供体制の確保、福祉体制の充実、医療従事者等の人材確保等が課題となっています。
- 観光客延数は、ここ数年横ばいの状況ですが、ピークの平成3年と比べると海水浴ブームの衰退、交通アクセスの問題、国内観光地間の熾烈な誘致合戦などにより大幅に減少しています。
- 基幹産業である第1次産業の総生産額は、農業については横ばいの状況で、水産業については減少傾向にあるうえ、就業者の高齢化や後継者不足など厳しい状況が続いています。特に水産業については、魚価安や漁業資材価格の高止まり等により漁業経営は厳しい状況となっています。
- 農業の基幹作目である畜産の繁殖牛経営では、素牛\*\*の導入価格の高騰や飼料価格の高止まり等により規模拡大が進みにくい一方で、高齢化による少頭飼い農家の離農が進んでいることから、増頭対策が必要です。
- 特産品の焼酎やウニ加工品等は、景気の低迷や輸入品の増加などにより伸び悩んでいるため、付加価値や知名度の向上対策、販路拡大など積極的な展開が必要です。また、新たな壱岐ブランド商品の開発、産地ブランドの確立も必要です。
- 環境にやさしい島づくりを推進するため、豊かな農水産物等の地域資源や自然を活かした取組が求められています。
- 航路・航空路は住民生活、医療はもとより観光や産業、経済、文化の振興に大きな役割を果たしており、今後も航路・航空路の確保・維持・改善を図るとともに、運賃低廉化への取組を進める必要があります。

※WTO<World Trade Organization>:各国が自由にモノ・サービスなどの貿易ができるようにするための各種の協定を決め、貿易課題の解決に取り組む国際機関

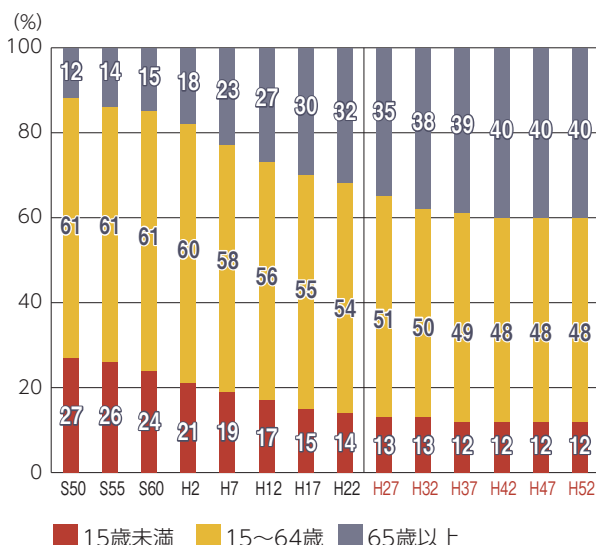
※素牛:生後6か月～12か月未満ぐらゐの肥育する前の子牛。または繁殖牛として育成する前の子牛

### ■ 総人口の推移及び予測



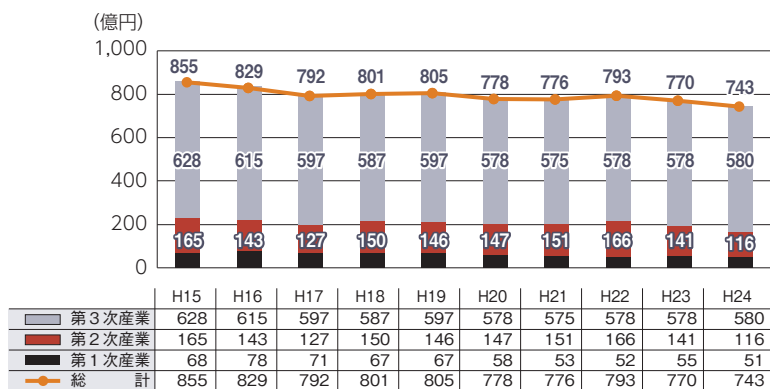
(出典) 国勢調査 日本の地域別将来推計人口

### ■ 年齢3区分人口比率の推移予測



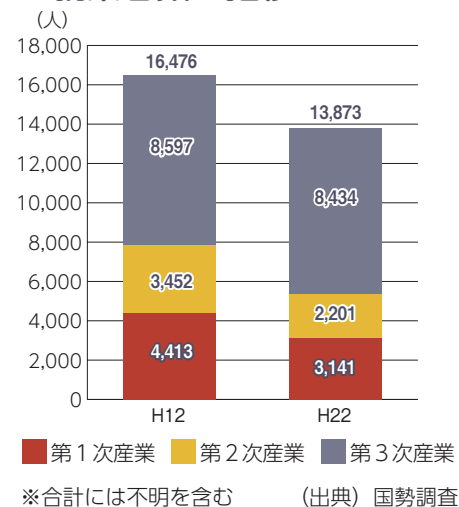
(出典) 国勢調査 日本の地域別将来推計人口

### ■ 総生産の推移

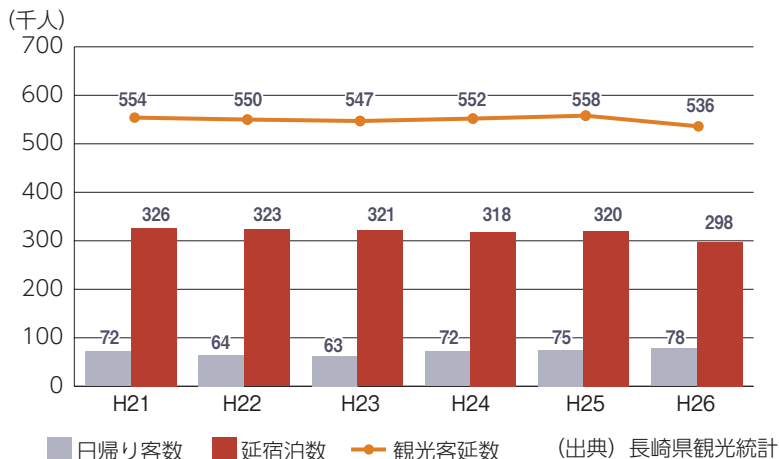


(出典) 長崎県市町民経済計算

### ■ 就業者数の推移



### ■ 観光客数の推移



## 6 壱岐地域（壱岐市）

### (3) 地域のめざす姿

古代ロマンを今に伝える歴史遺産、焼酎や豊かな農畜水産物の魅力にあふれ、福岡に近接する優位性を活かして人と人とが活発に交流するとともに、安心して住み続けられるしま

### (4) 数値目標

指標	基準値(基準年)	目標値(目標年)
延べ宿泊者数	29.8万人(H26)	34.9万人(H32)
集落営農組織の法人化数	2組織(H26)	21組織(H32)
第1次産業新規就業者数	20人 (農林業:H22-H26平均) (水産業:H26)	23人/年 115人(H28-H32累計)
あじさいネット閲覧施設数	0施設(H26)	6施設(H32)

### (5) 地域づくりの方向性

#### 1 地域資源をごっそり活かした 産業振興で活力あふれるしまづくり

##### 主な取組

壱岐ならではの観光資源を最大限に活かした旅行商品や体験活動プログラムを、島民が一丸となって「ごっそり（まるごと）島外へ売り込む」ことで、体験型観光（滞在交流型観光）の定着を図るほか、農水産業など異業種との連携を推進し、魅力ある観光振興を図ります。

- 取組例
- 自然体験や農業・漁業体験、歴史散策などの魅力ある体験メニューの構築
  - 壱岐独自の交流民宿<sup>\*</sup>を通して、人との触れ合いや心に残る交流体験を提供する教育旅行受入を推進
  - 市、観光連盟、観光事業者、体験事業者等関係機関との連携強化
  - 漁協と連携した定置網やイカの一夜干、磯遊び等の漁業体験及び辰の島遊覧観光の充実
  - 旅館や民宿等での「壱岐産米」をはじめとした壱岐産農水産物によるおもてなしへの取組推進

日本遺産認定第1号「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」を構成する文化財と、関連する食文化等を含めた観光資源の活用と情報発信により、壱岐の観光の更なる魅力を向上させ、福岡都市圏との近接性を十分に活かし、国内外からの交流人口の拡大を図ります。

- 取組例
- 日本遺産の活用と全国への情報発信、国内外の観光客の受入体制整備
  - 日本遺産とその他の観光資源や農水産物、体験活動プログラム等を効果的に組み合わせた観光資産の魅力の向上



原の辻遺跡

<sup>\*</sup>交流民宿:教育旅行の効果を高めるために、交流や体験を通じたふれあいを重視した少人数・貸切での民宿泊のしくみ

キャトルステーション<sup>※</sup>や肉用牛ヘルパー組織<sup>※</sup>等の利用促進による労力支援体制の強化及び法人経営を含めた大規模経営体の規模拡大推進により、農業の基幹作目である肉用牛の増頭を図ります。肉用牛のほか、水稻・葉たばこの基幹作目やアスパラガス・いちご・メロン・ミニトマト等の施設園芸や小菊、ゆず等についても産地の面的拡大、収益性の向上に努め、農業の振興を図ります。

- 取組例
- 地域畜産クラスター協議会による肉用牛の増頭推進
  - 肉用牛ヘルパー組織やコントラクター等の労力支援システムの構築
  - キャトルステーションやキャトルブリーディングステーション(CBS)<sup>※</sup>等の既存施設を活用した労力低減の推進
  - 「つや姫」等良食味米の食味向上・高品質安定生産によるブランドの確立
  - アスパラガスの新改植事業活用、いちごのパッケージセンター活用、ミニトマトの共同選果等による産地拡大推進



吉岐産アスパラガス



牛への給与風景

イカ釣りや一本釣り漁業など沿岸漁業者の経営強化の推進、浜の魅力を活用する「浜の活力再生プラン」に計画される収入向上対策等による漁村地域の活性化、恵まれた資源を活用した旬の時期の魚の地域ブランド化や安価な漁獲物の加工等による魚価の向上、資源管理と漁業生産を支える漁場づくり等による水産業の振興を図ります。

- 取組例
- 漁業種類の多角化や未利用資源(アカモク<sup>※</sup>)の活用等による経営強化
  - サワラ等について地域ブランド化の取組推進や、時期により安価となる漁獲物(イカ類等)の漁村加工等による販売価格の向上
  - 島内全域で実施されている藻場回復の取組推進



吉岐産ケンサキイカ



藻場回復に向けた母藻設置

基幹産業である第1次産業の担い手確保により、産地の維持・発展を図ります。

- 取組例
- 担い手不足が懸念される地域において集落を単位とした営農組織設立の推進
  - 既存集落営農組織の法人化推進
  - 漁業技術の習得などへの支援、初期投資の軽減による漁業就業者の確保・育成



小学生を対象とした水産教室

吉岐焼酎をはじめとした特産品の福岡都市圏など大消費地での販路拡大、農水産物等の「吉岐ブランド」化、流通コストの低減を図るほか、6次産業化や地産地消の推進を図ります。

- 取組例
- 吉岐焼酎の産地ブランドとしての認知度向上のため、福岡市などでのイベント開催と、海外を含めた販路拡大
  - 農水産物の高付加価値につながる地域の加工等の取組を農商工連携<sup>※</sup>事業により推進
  - 農産物直売所や加工所と菓子業者等他産業との連携強化による更なる6次産業化の推進
  - 焼酎用麦の面積拡大と吉岐産米の焼酎原料への利用促進

多様な消費者ニーズに対応した吉岐らしい「選ばれる商品づくり」「売れる商品づくり」に取り組み、活気あふれる商業の振興を図ります。

- 取組例
- 商工会等と連携し、パッケージデザインの開発や商品改良などを推進
  - 吉岐の特産品であることを認証する統一ロゴマーク等の検討



吉岐焼酎

※キャトルステーション:肉用牛繁殖農家が管理労力の軽減を図るため、生後4か月齢から子牛市出荷まで約6か月間委託する子牛共同育成施設

※肉用牛ヘルパー組織:畜産農家が休日の取得や病気等で日常の飼養管理や作業ができない場合に一定料金で代行する組織

※キャトルブリーディングステーション(CBS):子牛の育成に加え、農家の繁殖牛母牛を預かり、受精や繁殖障害牛の治療を行う機能を備えた繁殖牛受託施設

※アカモク:褐藻綱ヒバマタ目ホンダワラ科の海藻で、日本全土の浅海に分布。1年生で秋から冬に生長し、4~7mの長さになる。秋田県等で食用とされている

※農商工連携:農林水産業者と商工業者が互いの「経営資源」や「技術」「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大等に取り組むもの

## 6 壱岐地域（壱岐市）

地場産業における雇用創出や後継者の確保を図るとともに、起業・創業の支援等による新しい産業の創出を推進します。

- 取組例
- 若年層の島内定着の推進のため、市や公共職業安定所との連携強化
  - 市と連携した空き店舗等を活用した起業・創業支援



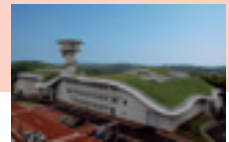
大型定置網の操業

## 2 壱岐の文化や豊かな自然等、 しまびと 島人の誇りを守り伝えるしまづくり

### 主な取組

日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」を構成する「原の辻遺跡」をはじめ、古くから大陸文化の中継地として重要な役割を担ってきた歴史的文化遺産を、島民共通の財産として保存・公開することにより、次世代に伝えていく取組を進めます。

- 取組例
- 壱岐市立一支国博物館、長崎県埋蔵文化財センターを体験、研究、学習、交流の場として活用
  - 長崎県埋蔵文化財センターにおける韓国や中国など国内外の研究機関との共同研究の推進と研究交流拠点としての確立



一支国博物館

しまの教育資源を活用し、地域と協働した学校の魅力化を図ります。

- 取組例
- 高校生の離島留学制度（壱岐高等学校：東アジア歴史・中国語コース）の充実

壱岐の恵まれた自然を守り、調和を図るため、環境保全活動及び環境教育の推進、多様な生態系の保全、自然とのふれあいの促進、水質の保全、下水道の整備など、環境にやさしい壱岐づくりを図ります。

- 取組例
- ボランティア団体等が実施する海岸清掃活動等へのフォローアップ
  - 若年層（小学生）を対象とした環境学習会の実施
  - 環境に関するキャンペーン等の実施

## 3 豊かな地域資源や自然を活かした 環境にやさしい低炭素のしまづくり

### 主な取組

米麦、壱岐焼酎、肉用牛などが結びついた循環型農業の展開など、豊かな農水産物等を活用した循環型社会の実現に向けた取組を推進します。

- 取組例
- 壱岐焼酎用麦の生産、焼酎粕の飼料利用、家畜糞尿の堆肥化利用などを組み合わせた壱岐独自の地域内資源循環型農業の推進

風力発電や太陽光発電の導入拡大、バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入検討など、低炭素社会の実現に向けた取組を推進します。

- 取組例
- 風力発電を有効活用する水素による電力貯蔵システムの検討支援
  - 次世代自動車充電インフラ整備の支援

## 4 住む人がいきいきと安心して暮らせるしまづくり

### 主な取組

地域の利便性・快適性・機能性を高める道路・公共交通の整備を図るとともに、杵岐の活性化に直結した交流機能としての港湾・漁港の整備を進め、島内外交通体系の強化を図ります。また、航路、航空路の確保・維持・改善と運賃の低廉化のための取組を進めます。

- 取組例
- 道路改良工事の推進
  - 交通結節点の整備推進(印通寺港の駐車場改善、芦辺漁港のジェットフォイル浮棧橋改善等)
  - 交通弱者、観光客の利便性を図るため島内二次交通の改善についての検討
  - JR並の離島航路運賃の実現推進
  - 航路・航空路の維持や利便性向上等への支援
  - 路線バスの維持等への支援



印通寺港駐車場改善



道路改良工事(渡良初瀬線)

地域包括ケアシステムの構築やコミュニティづくり、ボランティア活動をしやすい環境をつくるなどの安心、ゆとりのある福祉社会づくりを図ります。また、長崎地域医療連携ネットワークシステム(あじさいネット<sup>※</sup>)の活用により、即時性のある診療情報の共有化を図り、医療と介護の連携を促進します。

- 取組例
- 医師会、社会福祉協議会等と連携した杵岐市地域包括システム構築の支援
  - あじさいネットを活用し、タブレットによる情報共有システム構築の支援



杵岐病院

光ケーブルが整備された優位性を活かし、独居老人等見守りシステムの導入など、離島医療や在宅福祉などにおける情報技術の活用を検討します。

地元医師会と長崎県病院企業団<sup>※</sup>杵岐病院が医療機能の役割分担と連携強化を図り、精神科を含む急性期から回復期、慢性期及び在宅医療まで切れ目の無い離島医療体制の構築を推進します。

離島勤務医師の住環境施設や常勤看護師の就労環境施設の整備による、医師・看護師の確保を図るとともに、介護関係者の確保と資質の向上を図ります。

- 取組例
- 杵岐病院の宿泊研修センターを活用し、研修医、医学・看護学生の受入及び医療技術職の研修を実施
  - 介護福祉関係専門学校の受入体制の整備支援

Uターン者の居住対策、雇用の場の確保など定住対策の推進を図ります。

- 取組例
- 市と連携したしま暮らしのための情報提供、相談窓口の設置、お試し住居整備や空き家対策等住環境整備の支援
  - 各種研修制度を活用した新規就農者、就漁者の確保・育成
  - 誘致する介護福祉関係専門学校の学生に対する支援体制の検討及び卒業後の定住促進

※あじさいネット:患者の同意のもとインターネット経由で中核病院の診療情報等を共有し、かかりつけ医等での診療に活用するネットワークシステム

※長崎県病院企業団:長崎県と島原・五島・杵岐・対馬の市町が一体となって病院を経営するため設立された特別地方公共団体